

とねりこ

81

知的障害者施設 いみず苑広報誌

青空、桜、菜の花、みんなの笑顔

…春の四重奏

発行

社会福祉法人 射水福祉会 いみず苑・いみず苑保護者会

〒933-0252 富山県射水市七美727 TEL 0766-86-1126 FAX 0766-86-1136 <http://www.imizuen.jp/>

「とねりこ」

かつて射水平野の水田の畦道に植えられていたこの木は、湿地を好み強い風にも倒れないことから、刈り取った稲を干す稲架(はさぎ)に利用されてきました。今号より、広報誌「とねりこ」は趣を変え、表紙の題字背景には「トネリコの木」を施しました。新しいとねりこをよろしく願います。

着任の挨拶

施設長 稲垣 宏



令和4年4月1日付けで施設長を拝命いたしました稲垣でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

施設ご利用者・ご家族の皆さま、地域の皆さまや関係機関の皆さまには、日頃より当「いみず苑」に対しまして、多大なご支援ご協力を賜り心から厚く御礼申し上げます。

さて、当法人は平成6年3月に創立してから28年が経過しました。この間、ご利用者・ご家族の皆さまをはじめ、地域の皆さま、関係機関の皆さまのご支援ご協力のおかげをもちまして、時代の変遷に伴って改正される法律や制度、多様化するニーズ等に対応して施設を拡充するとともに、様々な取組を展開するなど、順調に発展してきております。このたび「いみず苑」の更なる発展に向け、その一翼を担う機会をいただいたことに対しまして大きな喜びを覚えるとともに、今日まで

の「いみず苑」の歴史を振り返りますと、改めて責任の重さと身の引き締まる想いを実感しております。

一方で、私は、これまで37年間、県の行政事務に携わってまいりましたが、厚生行政には8年間携わっているものの、障害者福祉分野は経験がありません。しかしながら、バイタリティは人一倍あると自負しています。今後、先達が今日まで築いてこられた立派な基礎を元にしつつ、新しい目線と持ち前のバイタリティを活かして改善すべき点は改善するなどして、より一層皆さまから信頼される「いみず苑」を目指してまいりたいと考えています。

結びに、今後とも、ご利用者の皆さま一人ひとりが生き生きと、安心、安全に、そして、笑顔に溢れる生活が送れるよう、微力ではございますが職務に精励してまいりたいと存じますので、皆さま方にはご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

入所式



4月1日に令和4年度の入所式がいみず苑「ひだまり」軽運動訓練室で行われました。入所式では、いみず苑の先輩利用者が参加して、新しく仲間になる4名の利用者を歓迎しました。わくわくと不安が入り混じった表情の皆さん。少し緊張気味の方もおられたようです。少しずつ慣れながら、楽しい毎日にしていきましょう♪

春らんまん♪

心躍る令和4年度。
新しい仲間を紹介します。

新規利用者紹介



いみず苑「ひだまり」

小櫻 啓太郎 さん

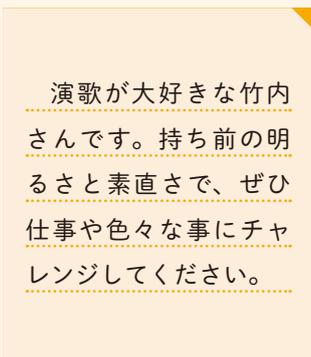
アニメが大好きで、好奇心旺盛な小櫻さんです。色々な人との交わりを通して、大人としてぜひ一歩ずつ成長していきましょう。



いみず苑「ひだまり」

湖本 早耶 さん

少し照れ屋さんですが、仕事はしっかりこなす湖本さんです。環境に少しずつ慣れて、素敵な笑顔も増えました。



いみず苑「ひだまり」

竹内 悠真 さん

演歌が大好きな竹内さんです。持ち前の明るさと素直さで、ぜひ仕事や色々な事にチャレンジしてください。



いみず苑「なごみ」

森本 凌多 さん

森本さんができると得意なことを活かせるよう、ゆとりをもった生活を提供し、心が和む場所となるよう努めていきます。

新採職員紹介

利用者さんに寄り添った支援ができるよう、一生懸命に頑張ります。よろしくお祈りします。

「なごみ」生活支援員
日下 葵



先輩職員の方々から教えていただきながら、利用者の方々安心して生活できる環境を築けるよう、精一杯頑張りたいと思います。よろしくお祈りします。

「なごみ」生活支援員
酒井 しおり



先輩職員方から分からないことをたくさん聞き、利用者の方からも習っていきたくと思います。利用者一人ひとりの個性と笑顔を大切に支援を行っていきたくです。

「ひだまり」生活支援員
土井 蒼真



利用者の皆さんと一緒に過ごせることが楽しみです！よろしくお祈りします！

「さんが」生活支援員
田中 結衣



安全で美味しい食事を迅速に提供できるよう励んでまいります。これからよろしくお祈りします。

厨房調理員
東海 晃



皆さんの笑顔のお手伝い頑張ります。困ったことがあったら、気軽に声をかけてください。

看護師
寺西 裕子



笑顔あふれる！ いみず苑の事業所

7つの事業所の各サービス管理責任者より事業所紹介！！

各サビ管の好きな事も聞きました！！

ひびき愛

入所されている利用者の皆さんに、リサイクル活動や簡易な受注作業、生活リズムや心の安定を図るための療育活動など、その方に応じた活動内容を提供しています。

まだまだ「コロナ禍」は続きそうですが、コロナ感染防止に配慮しつつ、利用者も職員も「わくわく」するような日常をみんなで作り上げていきたいと思っています。



(好きな事) 今年はソロキャンプにチャレンジしたいと思っています。

●サービス管理責任者 浦山 順生



なごみ

みんなが一緒になって身体を元気に動かす歩行活動やそれぞれの特性を生かした個別課題に取り組んでいます。皆さんが同じ時間を共有しながらも、ゆったりとしたそれぞれの時間が流れている…「なごみ」にはそんな日常があります。

生活のリズムが安定できるよう、一人ひとりの活動や個性に寄り添い、心穏やかに、そして何より健康に、毎日が素晴らしいと思えるよう過ごしていただきたいと思っています。



(好きな事) 仏像拝観、知らない道の運転

●サービス管理責任者 北川 昌一



ひだまり

今年7月で「ひだまり」が開所してから3周年を迎えます。

日課として受注作業や清掃活動、歩行活動等に取り組んでいます。作業に懸命に取り組む時間と、身体を動かしてリフレッシュする時間を、ニーズに応じて提供します。また、軽運動訓練室で行うレクリエーションや行事も、皆さんの楽しみとなっています。

「ひだまり」が皆さんにとって心身ともに温かで元気な場所になるよう、これからも支援していきます。



(好きな事) 映画館へ足を運んで、気になる映画を観ることです。

●サービス管理責任者 片岡 真一



きらめき

きらめきでは、アルミ缶やペットボトルのリサイクルと野菜や花を育てる農園芸の2つの班に分かれて活動しています。リサイクル班では、自分たちで回収や分別、プレスをして、企業に納品しています。農園芸班では、畑で野菜を育てたり、花壇に季節の花を植えたりしています。

皆さん、得意分野で元気に活動しています。活動に取り組みやすい環境づくりを心がけて、職員も一緒に頑張っています。



(好きな事) ミステリー小説を読むこと

●サービス管理責任者 石川 裕美



かがやき

企業等からの受注作業を通して、活動する喜びと生活能力向上を目指しています。取引先の指示通りに製品を仕上げるため、それぞれの得意なことを活かし、皆が協力することで依頼にこたえています。数や向きも正確に、早さも意識しながら取り組んでいます。また、リフレッシュを図るため、歩行活動も取り入れています。

簡単な組み立てや数え、袋詰めなどの作業を求めています。企業の皆様ぜひお声がけください。



(好きな事) ストームガラスの観察、バキバキのフランスパンを食べる事

●サービス管理責任者 梶谷 紀子



さんが

利用者一人ひとりがその適性に合った生産活動や療育・創作活動に参加することで、各々が「楽しみ」や「充実感」を得られることを目指しています。生産活動では、皆が協力して作業に取り組み、療育創作活動では、個別課題に応じた訓練や体力保持のための歩行活動に取り組む場を提供しています。また、毎日の休憩時間には軽快な曲に合わせた「ゆとり体操」を行い、毎週火曜日には軽運動訓練室において歩行活動を行うなど、利用者の体力づくりとリフレッシュを図っています。



(好きな事) サスペンスドラマや動物関係のTV番組を視聴すること

●サービス管理責任者 村本 栄子



はばたき

日頃は、事業所内で受注作業に取り組みつつ、ほかにも射水市や地域の企業のご協力をいただいて、職員とともに事業所外の施設に出向いて、さまざまな作業に取り組んでいます。利用者さんが働く「よるこび」や「やりがい」を感じることができるとして、職員一丸となって日々の支援を行っています。また、利用者の皆さんが社会のルールを理解し、協調性を大切にしながら、地域社会の一員としての自覚を持てるためのサポートも心がけています。



(好きな事) 武術、フレッシュテニス、パークゴルフ、スキー

●サービス管理責任者 水口 満



＼ 青い空の下、桜も笑顔も満開 /



さくらめぐり

お花見ドライブ編

春の陽気に誘われて、公園や山、川沿いへ、満開の桜と春を楽しんできました

「呉羽山公園」はちょうど桜が見ごろでした。
桜のアーチが優しくお出迎え。皆さん、笑顔で
桜のトンネルをくぐりました。



呉羽山



さあ、出かけよう！お花見ドライブ

爽やかな風を感じながら「平和の鐘」を
鳴らしてきました♪



二上山



ポカポカ、春の陽気を楽しみました。



春の光をいっぱい浴びて。



七美公園

しだれ桜がとてもきれいでした。



加茂社



保護者のつとめ

「ありのままの自分で生きる」

谷口 早衣子

颯太郎は、今年20歳になりました。いみず苑で皆様に成人のお祝いをしていただき、あたたかな時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

颯太郎がまだ幼い頃、「障害があります。」と告げられた日のことを、昨日のようにはっきりと覚えています。それからはや20年。とても長かったような、あっという間だったような。

いろいろなことにとらわれ、悩む私とは違い、颯太郎はいつまでも、ただありのままの自分でそこにいてくれました。今は、ありのままの颯太郎が愛おしいです。

時にはイライラを外におつけたり、マイルールにこだわったりと、困り事は今もつきませんが、それでもたくさんの周りの方々に支えられ、見守られながらここまでくることができま

した。私自身も、颯太郎という存在によってたくさんの優しさに触れ、たくさんの出会いがあり、ひとが生きるうえで本当に大切なものとはなんだろうということを日々教えられている気がします。

今の颯太郎は『いみず苑』という自分らしくいられる場所を見つけて過ごしています。皆様に、いつもあたたかくケアをしていただき、本当に感謝しております。これからも笑顔あふれる毎日が、颯太郎に、そしていみず苑の全ての皆様方に続きますように願っております。これからもよろしく願います。



「理解してもらえるありがたさ」

岩澤 こず恵

「わかりません」「もう手におえません」問題行動を起こす度、何度言われたか数えきれません。あなたの育て方が悪いと怒られ、片親だからと片付けられた事も沢山ありました。悔しくて、情けなくて、泣いた事も数知れず。でも、そんな中でも色々な方にサポートして頂いて、なんとかやってこられました。

正直、私自身わからない時もあるし、もうダメだと投げ出したくなる時もあります。それでも、克哉の一番の理解者でありたい、克哉が穏やかに笑って過ごしてくれたら、その一心でふんばってやってきました。でも、一人でふんばるのも限界と思う時もあります。

いみず苑へ通所させて頂いて2年。毎日問題行動を起こしては、スタッフの皆さんにご迷惑をおかけしています。たとえ仕事だとしても腹立つ事もあるでしょう。でも、スタッフの皆さんは常に前向

きに、克哉の代わりに寄り添って日々接して下さっています。しかも、家族にも寄り添って下さって、当たり前ではない、その理解してもらえる事がどんなにありがたい事か。ただただ感謝です。

克哉自身少しずつ落ち着いて過ごせる様になってきたし、私達家族も笑顔が増えたし、何より、無理することなく前を向いて笑って過ごそうと日々思える様になりました。スタッフの皆さんにはこれからもご苦勞、ご迷惑をおかけすると思います、絶対に。私達家族は日々支えて下さる皆さんに感謝して、克哉と家族とスタッフの皆さんと毎日笑って過ごしていければいいなと思います。



健康診断

通所センターさんがは4月13日、七美では5月16日に、血液検査、胸部X線間接撮影、心電図等を含む健康診断を実施しました。利用者の中には言葉で不調を表現することが苦手な人も多くいますが、健康診断は、健康を保つためにもとても大切です。結果をもとに、今後も健康づくりに努めていきます。



ボランティア ありがとうございました

- 新湊理容師会（理髪）
- 訪問理美容サービス「フロール」(美容)

ご寄付・ご寄贈 ありがとうございました

- ダイワメタル(株)
 - 萩野 浩
 - (財)花と緑の銀行 射水支店
- (順不同・敬称略)

苑の行事予定

令和4年6月現在

6月

利用者日帰り旅行

避難訓練

8月

納涼祭（8月20日(土)）

※上記の行事予定については、新型コロナウイルスの感染拡大状況等により、延期または中止となる可能性があります。

あいネットいみず

(射水市障害者地域活動支援センター)

あいネットいみずでは、障害（身体・知的・精神）のある方やその関係者の方々の相談に応じ、必要な情報を提供します。

あいネットいみず(射水市七美727 いみず苑内)

専用TEL (0766)86-8522 FAX 86-8530

Eメール info@inet-imizu.jp

ホームページ <http://www.inet-imizu.jp>

編集後記

いみず苑広報誌「とねりこ」創刊は平成7年。27年という長い歴史に感慨深いものを感じます。ふと、なぜ「とねりこ」と命名したのか疑問に思い、そのヒントを探しに、改めて第1号を読み直してみました。そこにあった『とねりこ創刊』という記事の中に、「トネリコの木は強い風にも倒れないことから、刈り取った稲を干す稲架（はさぎ）に利用されている。はさぎ風景は、手をつないでいるようにも、肩を組んでいるようにも見える」とありました。「とねりこ」が、利用者・職員・地域が強く手を繋ぐ広報誌となるようにという、そんな願いが込められているのかなと想いを馳せました。

今号より、広報誌「とねりこ」は装い新たになり、表紙にはトネリコの木を施しました。先人が紡いできた「とねりこ」への想いや願いを、これからも育てていきたいと思えます。

(眞田章太郎 記)